

# 活用事例紹介

2019/12/14 オープンミーティング  
CCJP事務局(森・豊倉)



注があるものを除いて、この資料は [CC BY 4.0](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/) の下で提供されています。

- 1.プラットフォーム関係
- 2.アーツ&カルチャー
- 3.オープンアクセス & オープンデータ

# 1.プラットフォーム関係

日本で広く利用されている以下のプラットフォームでもCCライセンスが利用されている。

- Wikipedia
- YouTube
- Vimeo
- Flickr
- Google画像検索
- Soundcloud
- Bandcamp

# Wikipedia

Wikipediaは、CCライセンス表示-継承 3.0 非移植 (CC-BY-SA 3.0) 及びGNU Free Documentation License (GFDL) の下にライセンスされている。[\(詳細\)](#)



The screenshot shows the Japanese Wikipedia main page. At the top left is the Wikipedia logo, a globe made of puzzle pieces with the Japanese character '維' (Ei) and the letter 'W'. Below it is the text 'ウィキペディア フリー百科事典'. To the right of the logo is a navigation menu with 'メインページ' (Main Page) selected, and other options like 'ノート', '閲覧', 'ソースを表示', and '履歴表示'. A search box contains the text 'Wikipedia内を検索'. In the top right corner, there are links for 'ログインしていません', 'トーク', '投稿記録', 'アカウント作成', and 'ログイン'. A central banner announces a '加筆大会' (Addition Contest) from December 1st to 31st. Below the banner is a large section titled 'ウィキペディアへようこそ' (Welcome to Wikipedia), which states that Wikipedia is a free encyclopedia that anyone can edit. To the right of this section, it says '1,179,578本の記事をあなたと' (1,179,578 articles with you) and 'モバイル版' (Mobile version). At the bottom right of this section, there is a link for 'Help for Non-Japanese Speakers'. On the left side of the page, there is a sidebar with various links: 'メインページ', 'コミュニティ・ポータル', '最近の出来事', '新しいページ', '最近の更新', 'おまかせ表示', '練習用ページ', and 'アップロード (ウィキメディア・コモンズ)'.

Wikipediaのメインページ (閲覧日: 2019/12/04)

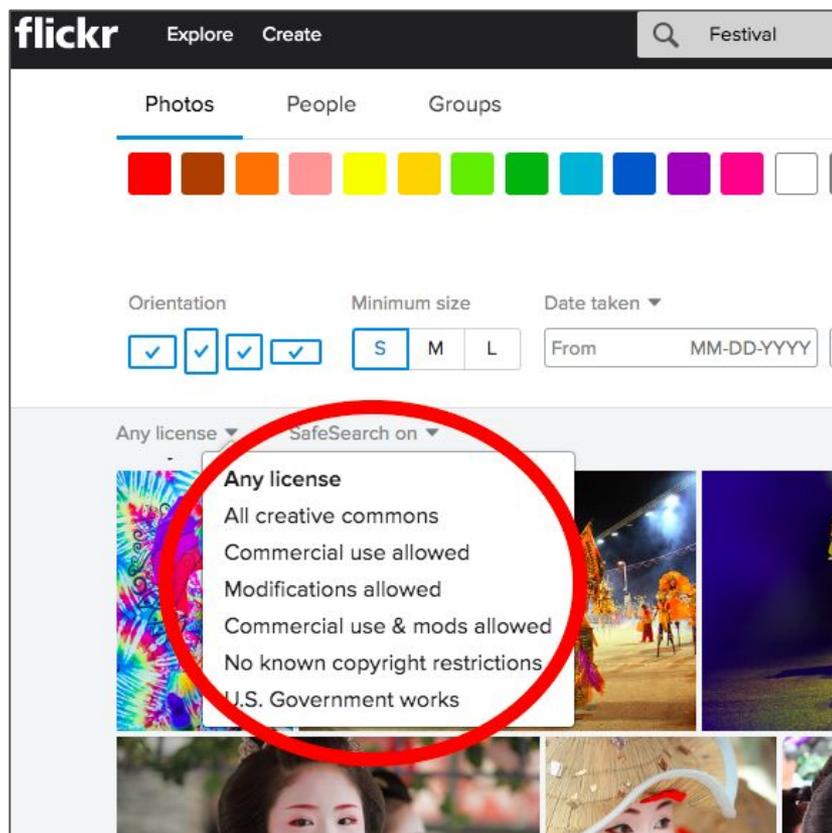
# メディアプラットフォーム

各種メディアプラットフォームでは、コンテンツを投稿する際にCCライセンスを付与するオプションが提供されている。

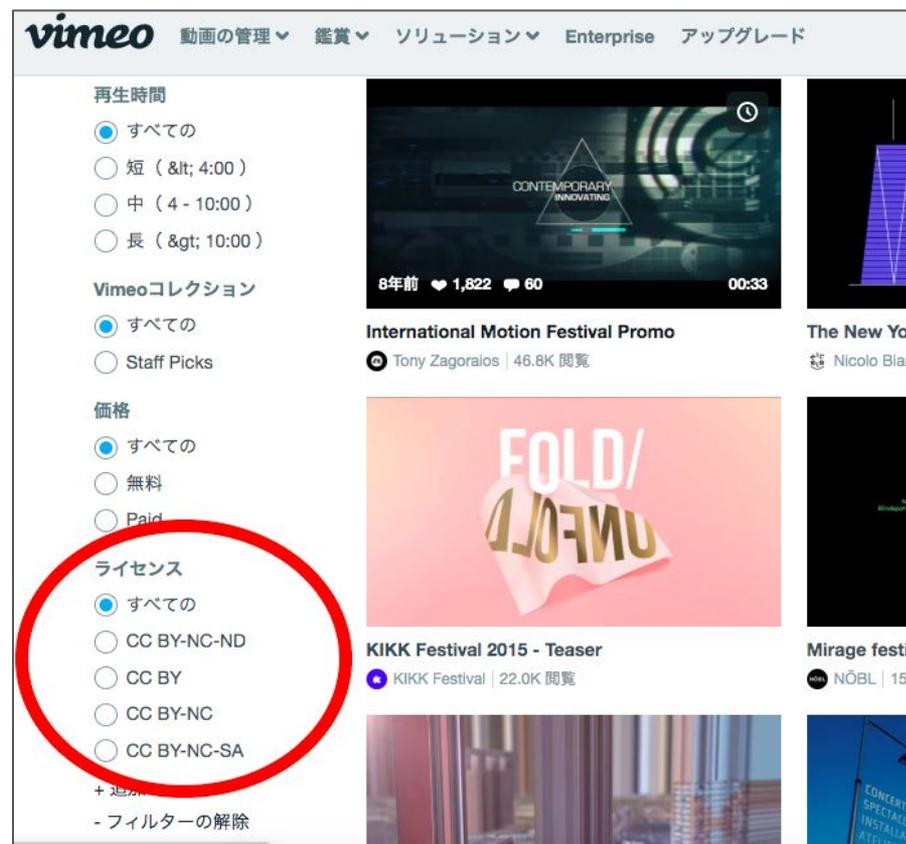
また、CCライセンスが付与されているコンテンツを抽出して検索できる検索フィルターが用意されている場合がある。

メディアのジャンル	サイト名	アップロード時のオプション	検索フィルター
動画	YouTube ( <a href="#">詳細</a> )	○	○
	Vimeo ( <a href="#">詳細</a> )	○	○
画像	Flickr ( <a href="#">詳細</a> )	○	○
	Google画像検索	—	○
音楽	Soundcloud ( <a href="#">詳細</a> )	○	○
	Bandcamp ( <a href="#">詳細</a> )	○	—

# 検索フィルターでのライセンス選択例



Flickrの検索フィルター



Vimeoの検索フィルター

## 2. アーツ & カルチャー

アーツ & カルチャーの分野でも以下のような利用例があり、二次創作などへ広がりを見せている例もある。

ここ数年の例

- [ジャパンサーチ](#)
- [FIND/47](#)
- [森美術館](#)
- [縄文オープンソースプロジェクト](#)
- [初音ミクなどクリプトン・フューチャー・メディア社キャラクターの公式イラスト](#)
- [大崎一番太郎](#)
- [SCP財団](#)
- [越中おわら節](#)
- [悪魔のしるし『搬入プロジェクト』](#)
- [任天堂の著作物の利用に関するガイドライン](#) ※

※CCライセンスの事例ではないが、オープン化の事例として

- ジャパンサーチ (BETA)



ジャパンサーチのメインページ (閲覧日: 2019/12/08)

- URL : <https://jpsearch.go.jp/>
- 概要 : 日本が保有する多様な分野のコンテンツの分野横断統合ポータル。試験版で、現在1800万件以上のデータを51データベースから検索可能。2020年までの正式版公開を目指す。  
データベース : 国立国会図書館デジタルコレクション、国立美術館所蔵作品総合目録、国立科学博物館サイエンスミュージアムネットなど。画像などが提供されているものもあればメタデータのみのものもある。
- ライセンスの採用状況 : コンテンツ／メタデータを載せる際に複数のライセンスから選択する。採用されているライセンスは15種類。(メタデータは原則CC0、サムネイルはCC0/CC BY相当に、デジタルコンテンツは可能ならCC BY相当にとのガイドラインあり)

- 森美術館



森美術館のメインページ (閲覧日: 2019/12/08)

- URL: <https://www.mori.art.museum/jp/>
- 概要: 2009年に開催された「アイ・ウェイウェイ展—何に囚って?」で日本の美術館として初めてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用(CC BY-NC-ND)し、館内での写真撮影を許可する企画展を実施。その後も継続的に企画展の際に、状況に応じて全部もしくは一部の作品について写真撮影とCCライセンスを付けての公開を許可する展示を続けている。
- ライセンスの採用状況: 展示作品の写真撮影とCC BY-NC-NDを付しての公開を許可
- 撮影された写真はInstagramやTwitterなどSNSで広く共有されている。(共有される際に必ずしもCCライセンスのクレジットがなされている訳ではないが、美術館の意図を外れた共有のされ方はほとんど無いように思える。)

- FIND/47



FIND/47のメインページ (閲覧日: 2019/12/08)

- URL: <https://find47.jp/>
- 概要: 2016年に経済産業省のプロジェクトPhoto METIとして始まる。2017年にFIND/47としてリニューアル。現在の運営母体はFIND/47事務局(観光予報プラットフォーム推進協議会)  
日本各地の名勝や祭りなどの写真を都道府県別のカテゴリ分けして掲載。CCライセンスの採用により多用途に再利用することができるように設計されている。投稿者からの写真は審査を経て掲載される。また著名写真家などによる表彰制度も実施されている。
- ライセンスの採用状況: プラットフォームとして全ての写真について、CC BYでの掲載としている。

- 縄文オープンソースプロジェクト



縄文オープンソースプロジェクトのパンフレットページのトップページ(閲覧日: 2019/12/08)

- URL : <https://jomon-supporters.jp/open-source/>
- 概要 : 2018年12月に、新潟県長岡市所蔵の「火焰土器」を九州国立博物館・大塚オーミ陶業株式会社・長岡市の共同研究で3Dデータを作成、そのデータをCC0にて公開。Takram,noiz architects,市原えつこによる3Dデータの活用例を示し、一般に広く3Dデータを用いた二次創作を促す。第2弾として、土偶(ミス馬高)の3DデータもCC0にて公開している。
- ライセンスの採用状況 : 火焰土器、土偶(ミス馬高)の3DデータをCC0にて公開
- Instagram、TwitterなどのSNSで3Dプリントで出力したものや、二次創作が共有されている。

### 3.オープンアクセス & オープンデータ

オープンデータやオープンアクセスなどの分野ではCCライセンスの利用が広まっている。

以下、CCライセンスが利用されている事例を紹介しつつオープンアクセス & オープンデータについて広く紹介する。

オープンアクセス

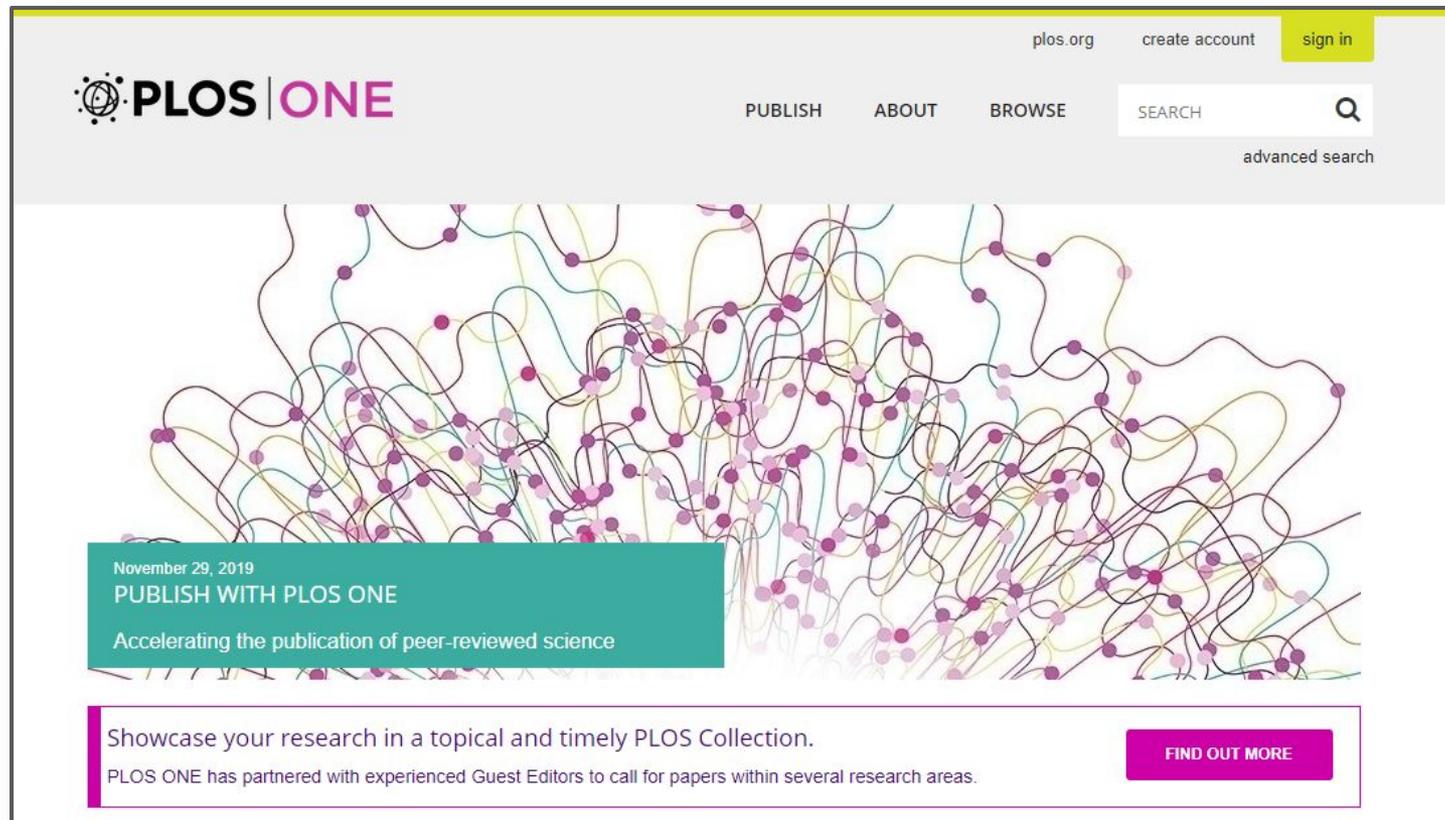
# オープンアクセスとは

「**学術論文等をウェブ上に無料公開することで、誰もが障壁なくアクセスできるようにする仕組みのこと**」

([東京大学附属図書館 オープンアクセスハンドブック第2版](#)より)

# オープンアクセスジャーナル

[PLOS One](#)を始めとしたPLOS系のジャーナルでは、投稿された論文はピアレビューを経てCC BYが[付与され公開](#)される。



plos.org create account sign in

**PLOS ONE**

PUBLISH ABOUT BROWSE SEARCH advanced search

November 29, 2019  
PUBLISH WITH PLOS ONE  
Accelerating the publication of peer-reviewed science

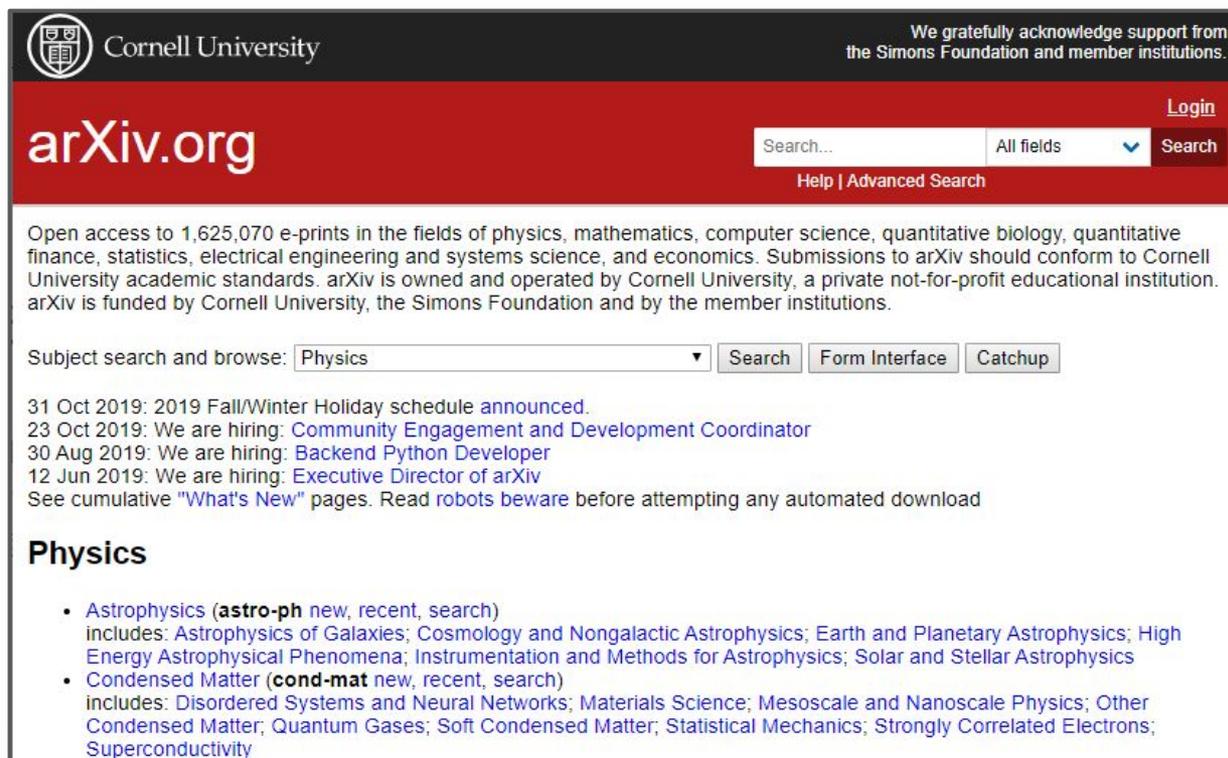
Showcase your research in a topical and timely PLOS Collection.  
PLOS ONE has partnered with experienced Guest Editors to call for papers within several research areas.

FIND OUT MORE

PLOS ONEのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# オープンアクセスジャーナル (続き)

[arXiv](#)ではジャーナル掲載前の原稿を公開することができる。投稿する際に[arXiv独自の非独占ライセンス](#)、あるいはCCライセンスを付与することを[条件としている](#)。



The screenshot shows the arXiv.org homepage. At the top left is the Cornell University logo and name. At the top right, it says "We gratefully acknowledge support from the Simons Foundation and member institutions." Below this is the arXiv.org logo and a search bar with a "Search" button. There is also a "Login" link. Below the search bar is a "Help | Advanced Search" link. The main content area starts with a paragraph about open access to 1,625,070 e-prints. Below this is a "Subject search and browse" section with a dropdown menu set to "Physics" and buttons for "Search", "Form Interface", and "Catchup". There are several news items with dates and titles, such as "31 Oct 2019: 2019 Fall/Winter Holiday schedule announced." and "23 Oct 2019: We are hiring: Community Engagement and Development Coordinator". Below the news items is a "Physics" section with a list of sub-fields and their descriptions, including "Astrophysics (astro-ph new, recent, search)" and "Condensed Matter (cond-mat new, recent, search)".

arXivのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# 日本でのオープンアクセスに関する主な出来事

- 2013年の学位規則改正による、博士論文の印刷公表に代わってインターネットを利用した公表の義務化と、それに伴う学術機関リポジトリの増加(リポジトリ一覧は[こちら](#))
- 2013年に科学技術振興機構(JST)が「JSTオープンサイエンス方針」を作成。2017年に同方針が改定され、全ての研究成果論文が原則としてオープンアクセスの対象となる。
- 2016年に日本学術会議が「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」を作成
- 2017年に国立情報学研究所(NII)オープンサイエンス基盤研究センター(RCOS)が設置される
- 2017年に東京大学附属図書館が「オープンアクセスハンドブック」を作成(CC BY-SA 4.0で利用可能)

# オープンアクセス関連のイベント

## オープンアクセスウィーク



アメリカにて[SPARC](#)と学生コミュニティによって立ち上がり、以後毎年10月に開催されているイベント。日本でも複数の大学で講演会や展示が行われている。(2019年オープンアクセスウィークのJPCOARによる概要は[こちら](#))

## Japan Open Science Summit

「オープンサイエンスに関わる関係者が活動成果を発表し課題を議論する一般公開イベント」であり「オープンサイエンスの最新情報を広く社会に提供し、相互の情報共有を進め、新たな連携を形成するための場」でもある([NIIニュースリリース](#)より引用)。初開催は2018年。2019年も行われ、2020年は6月3日～4日の日程で[予定されている](#)。

オープンデータ

# オープンデータとは

「特定のデータが、一切の著作権、特許などの制御メカニズムの制限なしで、全ての人々が望むように利用・再掲載できるような形で入手できるべきであるというアイデア」

(「[オープンデータ](#)」(2018年1月10日 13:57 UTC)『ウィキペディア日本語版』より)

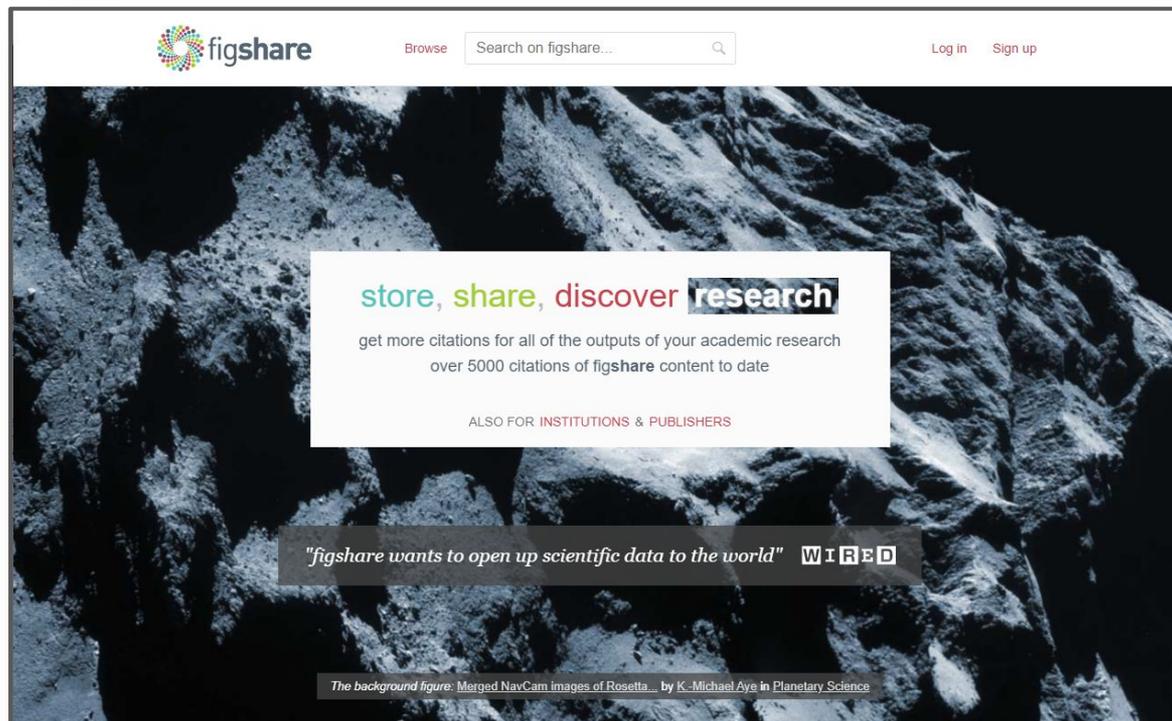
# 研究データのオープン化

研究データをオープン化する動きが出てきており、そのためのデータリポジトリが存在する。

# 研究データのオープン化

## FigShare

無料ユーザーについては、画像、メディア、ポスターなどはCC-BYライセンスが付与され、データセットやメタデータはCC0ライセンスが付与される。

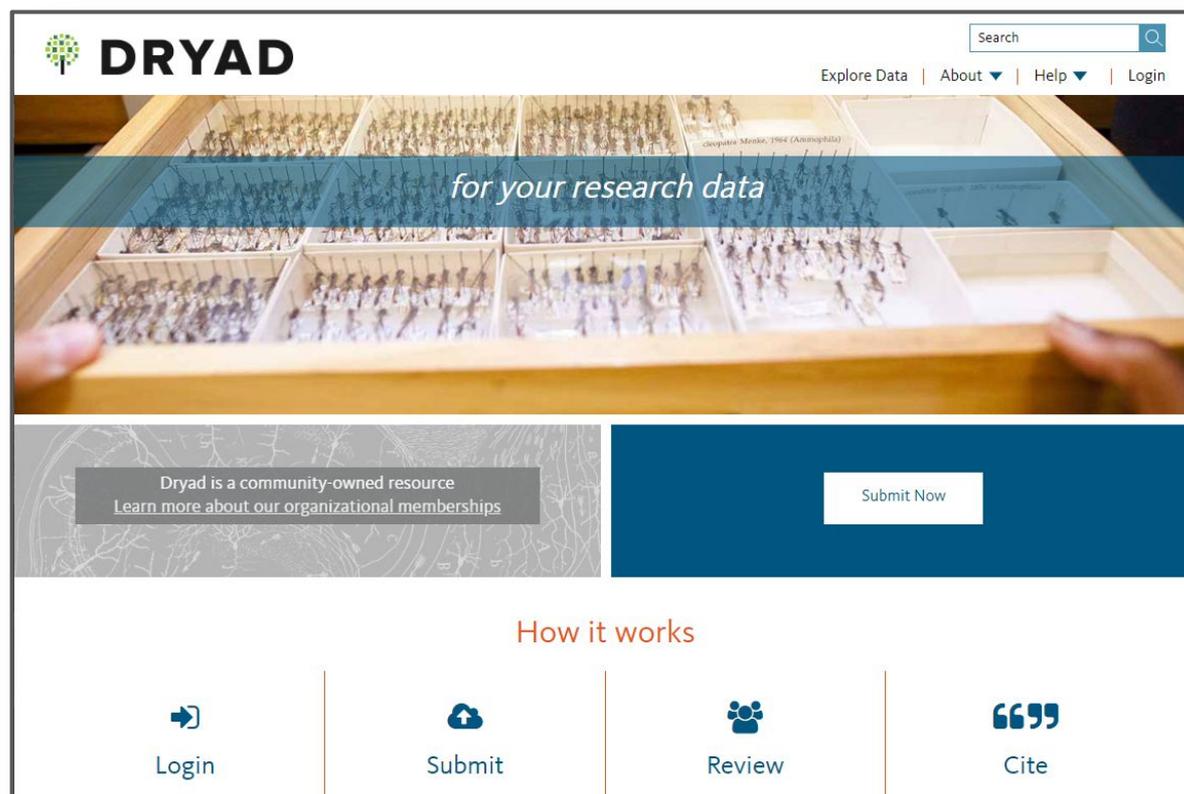


FigShareのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# 研究データのオープン化 (続き)

## [Dryad](#)

すべてのデータにCC0が付与される。

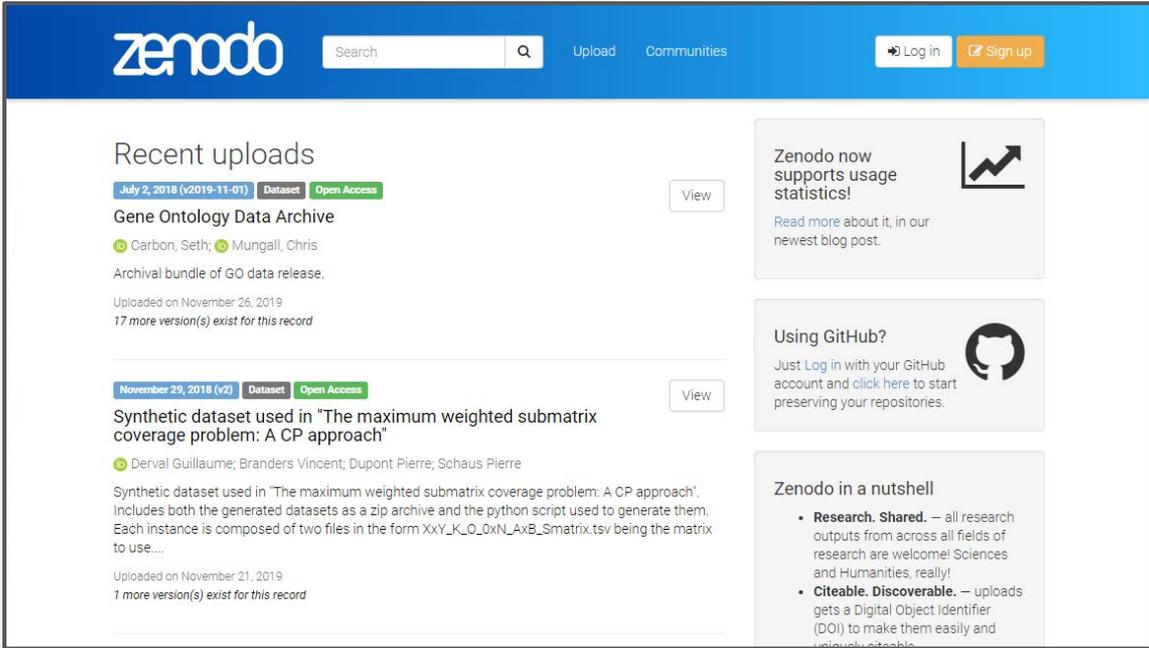


Dryadのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# 研究データのオープン化 (続き)

## Zenodo

データセットに付与できるライセンスをオープンライセンスに限ってはいないが、オープンライセンスの利用を促進するために、オープンライセンスを付与したデータセットに対し、サイト上の表示の優先や、アップロード可能上限の引き上げといった優遇措置を設けている。



The screenshot shows the Zenodo homepage with a blue header. The header contains the Zenodo logo, a search bar, and links for 'Upload', 'Communities', 'Log in', and 'Sign up'. The main content area is divided into two columns. The left column features 'Recent uploads' with two entries: 'Gene Ontology Data Archive' (uploaded July 2, 2018) and 'Synthetic dataset used in "The maximum weighted submatrix coverage problem: A CP approach"' (uploaded November 29, 2018). The right column contains three promotional boxes: 'Zenodo now supports usage statistics!', 'Using GitHub?', and 'Zenodo in a nutshell'.

zenodo Search Upload Communities Log in Sign up

Recent uploads

July 2, 2018 (v2019-11-01) Dataset Open Access View

Gene Ontology Data Archive

Carbon, Seth; Mungall, Chris

Archival bundle of GO data release.

Uploaded on November 26, 2019

17 more version(s) exist for this record

November 29, 2018 (v2) Dataset Open Access View

Synthetic dataset used in "The maximum weighted submatrix coverage problem: A CP approach"

Derval Guillaume; Branders Vincent; Dupont Pierre; Schaus Pierre

Synthetic dataset used in "The maximum weighted submatrix coverage problem: A CP approach". Includes both the generated datasets as a zip archive and the python script used to generate them. Each instance is composed of two files in the form `XXY_K_0_0xN_AxB_Smatrix.tsv` being the matrix to use...

Uploaded on November 21, 2019

1 more version(s) exist for this record

Zenodo now supports usage statistics!

Read more about it, in our newest blog post.

Using GitHub?

Just Log in with your GitHub account and click here to start preserving your repositories.

Zenodo in a nutshell

- **Research. Shared.** — all research outputs from across all fields of research are welcome! Sciences and Humanities, really!
- **Citeable. Discoverable.** — uploads gets a Digital Object Identifier (DOI) to make them easily and uniquely citeable.

Zenodoのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# 行政データのオープン化

# 政府標準利用規約

政府標準利用規約とは、各府省ホームページのコンテンツの二次利用を広く認め、オープンデータを促進するための利用規約のひな形である。

2013年の各府省CIO連絡会議で決定した「二次利用の促進のための府省のデータ公開に関する基本的考え方(ガイドライン)」に沿って「[政府標準利用規約\(第1.0版\)](#)」が2014年に作成され、各府省ホームページにおけるコンテンツ利用ルールをこれに変更することとした。

2015年12月に改定が加えられた「[政府標準利用規約\(第2.0版\)](#)」が決定され、こちらには**CC BY 4.0と互換性がある**と記載されている。

(適用除外もあり、各省庁の規約内に列挙されている)

# 行政データのオープン化

2016年に公布・施行された「官民データ活用推進基本法」にて、国及び地方公共団体はオープンデータに取り組むことが義務付けられた。

内閣官房IT総合戦略室が[公表した](#)、「地方公共団体オープンデータ推進ガイドライン(令和元年11月22日改定版)」では、

**「国内外でデータの有効な利活用を図る観点から、国際的にも広く認知されている標準的なルールである『クリエイティブ・コモンズ ライセンス 表示 4.0 国際 (CC BY)』を採用することが望ましい」**

と記されており、CCライセンスの利用が推奨されている。

政府は2020年度までに地方公共団体のオープンデータ取組率を100%とすることを目標としている。

(政府の取組については[こちら](#)。)

# 行政データのオープン化 (続き)

内閣官房IT総合戦略室による企画・立案の下、総務省行政管理局が運用する公共データの案内・横断的検索を目的とした「データカタログサイト」である[DATA GO.JP](https://data.go.jp)が2014年から本格運用を開始している。

The screenshot shows the homepage of DATA GO.JP. At the top right, there are language options for Japanese and English. The main header features the logo 'DATA GO.JP データカタログサイト' and a navigation menu with items like 'お知らせ', 'データ', 'データベースサイト一覧', '公共データ活用事例', 'コミュニケーション', and '開発者向け情報'. Below the header is a search bar with the placeholder text 'データセットを検索...'. A notice below the search bar states: '意見受付コーナーにて、オープンデータの掲載に関する御要望等を受け付けております (匿名可)'. The main content area is divided into several sections: 'データ' (Data) with icons for XLSX, CSV, HTML, XML, and PDF; 'オープンデータの取組 (リンク集)' (Open Data Initiatives (Link Collection)) with a central 'OPENDATA LINKS' icon; 'コミュニケーション' (Communication) with speech bubble icons; '一億総活躍社会の実現' (Achieving a Society of 100 Million Active Citizens) with sub-items like '子育て支援', '安心につながる社会保障', and '希望を生み出す強い経済'; '2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会' (2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games) with sub-items like '大会の円滑な準備及び運営' and '大会を通じた新しい日本の創造'; and '地方公共団体データベースサイト一覧' (List of Local Government Database Sites) with a bar chart icon.

DATA GO.JPのホームページ (閲覧日: 2019/12/01)

# 行政データのオープン化 (続き)

総務省統計局が整備し、独立行政法人統計センターが運用管理を行っている、日本の政府統計関係情報のワンストップサービスを実現するためのポータルサイト [e-Stat](#) が2008年から運用を開始している。

The screenshot shows the e-Stat website homepage. At the top left is the e-Stat logo with the tagline "統計で見る日本" (Japan seen through statistics) and "政府統計の総合窓口" (Comprehensive window for government statistics). To the right, there are links for "お問い合わせ | ヘルプ | English" and buttons for "ログイン" (Login) and "新規登録" (New Registration). Below the header is a navigation bar with links: "統計データを探す" (Search for statistics data), "統計データの活用" (Use of statistics data), "統計データの高度利用" (Advanced use of statistics data), "統計関連情報" (Statistics-related information), and "リンク集" (Link collection).

The main content area is divided into several sections:

- 統計データを探す (政府統計の調査結果を探します)** (Search for statistics data (Search for survey results of government statistics))
  - すべて** (All): 政府統計一覧の中から探します (Search from a list of government statistics)
  - 分野** (Field): 17の統計分野から探します (Search from 17 statistical fields)
  - 組織** (Organization): 統計を作成した府省等から探します (Search from government agencies that create statistics)
- 統計データを活用する** (Use statistics data)
  - トレンド** (Trend): 主要指標を、グラフ・時系列で表示 (統計ダッシュボード) (Display main indicators with graphs and time series (Statistics Dashboard))
  - 地図** (Map): 地図上に統計データを表示(統計GIS) (Display statistics data on a map (Statistics GIS))
  - 地域** (Region): 都道府県、市区町村の主要データを表示 (Display main data of prefectures, cities, towns, and villages)
- その他の統計** (Other statistics)
- 利用ガイド** (Usage Guide)
- 統計データの高度利用** (Advanced use of statistics data)
  - マイクロデータの利用** (Use of microdata): 公約統計のマイクロデータの利用案内 (Guidance on the use of microdata from public contract statistics)
  - 開発者向け** (For developers): API、LODで統計データを取得 (Obtain statistics data using API, LOD)
- 統計関連情報** (Statistics-related information)
  - 統計分類・調査項目** (Statistics classification and survey items): 統計分類、市区町村コード、調査項目を表示 (Display statistics classification, city/town/village codes, and survey items)

At the bottom, there is a banner for the "国勢調査 2020" (National Census 2020) with the text "開始100年の国勢調査、はじまります" (The 100th anniversary of the National Census begins). The banner includes a brief description of the census and its importance for Japan's future.

# 行政データのオープン化 (続き)

各都道府県についてのデータカタログサイトも存在する。



北海道



東京都



大阪府



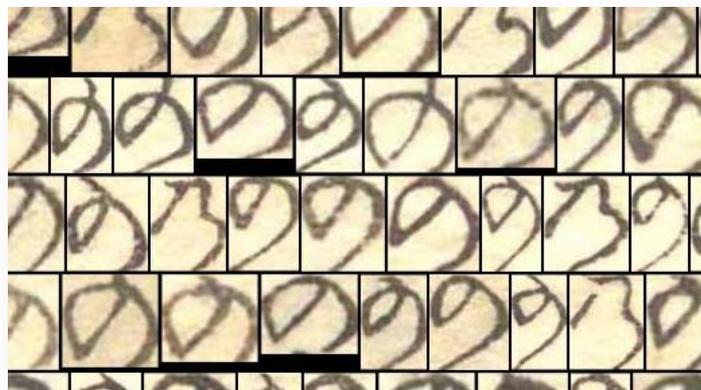
福岡県

# その他のオープンデータの事例

## その他のオープンデータの事例

人文学分野におけるデータサイエンスの活用を推進している[人文学オープンデータ共同利用センター](#)では複数のデータセットをオープンライセンスで提供している。

例えば、古典籍701点の画像データをダウンロード可能な形式で提供している「[日本古典籍データセット](#)」や、くずし字を対象とした文字のデータセット「[日本古典籍字形データセット](#)」はCC BY-SAで提供されている。



『日本古典籍くずし字データセット』(国文研ほか所蔵  
／CODH加工) doi:10.20676/00000340